

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第134号(2018. 5. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## ～ 施設における防災への取組み ～

特別養護老人ホーム香東園  
理事施設長 中條 弘矩

私たちの施設、特別養護老人ホーム香東園は今年で51周年を迎える社会福祉法人香東園発祥の地で、香川県で最初の特養施設として開設されました。現在は特養（定員80名）、短期入所（定員20名）、盲養護（定員50名）、軽費（定員30名）、通所施設（定員30名）が併設され、総計約210名の入所者、利用者様を約120名の職員で日々の生活を支援し、お世話させていただいています。

心身に障害を持ち常に介護を要するご高齢の方々が、持てる機能を保持しつつ安全で快適な日々を送っていただくのが私たちの使命ですが、常にあらゆる形でリスクが付きまといまいます。機能訓練でできるだけ自分の脚で立ち、歩けるようにと努力の成果が出てくると転倒のリスクが、楽しみの少ないなか美味しく食事をすると思えば誤嚥のリスクがあり常に緊張が伴います。介護上のリスクもさることながら、もっと怖いのが災害です。

災害といってもいろいろで、火災、風水害、土砂崩れ、地震等々、いずれも自力で動けないご高齢の入所者、利用者様を多数かかえる施設として災害時にどう対処するかは、誠に深刻な課題です。そこで防災計画書を検討するにあたって施設の特性と周囲の状況、置かれている環境を再検証してみました。さぬき市のハザードマップでは、当施設は数メートル周囲より高い位置にあり、浸水、津波、土砂崩れなどの危険性は少ないことが分ります。

そこで火災と地震に対する対応を最優先の課題と位置づけて、様々な対応を考えました。

まず火災ですが、全施設を対象に消火・避難訓練を年二回以上実施すると共に緊急





時の連絡網の訓練も行っています。建物は鉄筋コンクリート造りで消火器、消火栓、スプリンクラー等を備え、火災報知機が作動すると全館放送と共に大川広域消防にも通報されることになっていますが、停電やエレベーター停止等の事態も想定して自家発電装置、ポータブル発電機、避難階段でのショルダー付担架等々、様々な工夫と備えをしています。が、際限のない課題が続きます。

地震はその規模によっては広範なエリアに甚大な被害が想定され、施設だけでなく施設職員や地域住民の方々も被害を受けている可能性があります。対応は困難を極めることとなるものと思われます。

災害と言えばまず避難と考えがちですが、200名を越す介護を要する高齢者を避難させることは不可能であり、收容する場所もありません。逆に地域の中で最も堅牢な建物であり、生活インフラの整ったバリアフリーの安全な場所は当施設である、との認識で成すべきことは何かを考えることとしました。



まず第一に施設入所者、利用者の安全を確保すること、第二に職員の安全を図ると共に在宅の介護サービスを受けている要援護者の支援をすること。更に公設避難所への避難に適さない近隣地域の要援護者の受入を行う福祉避難所としての役割に徹することが最重要の使命ではないかと思われ、そのような観点から今後の様々な対策を講じて行きたいと考えています。

香川県でも香川県社協を中核として行政、民間施設団体、支援団体、職能団体等の福祉に関係する殆ど全ての団体で構成する香川県災害福祉支援ネットワーク推進会議が発足し、今までにはなかった体制が整いつつあり、大いに期待したいと思います。



毎年11月1日には全県下で地震発生時の避難訓練としてシェイクアウトの取り組みが行われていますが、香東園では昨年11月2日にシェイクアウトプラスワンということで、近隣自治会の皆さんと連携して福祉避難所としての受入訓練を実施しました。定刻2時に全員でシェイクアウト、その後香東園へ集合して福祉避難所としての役割等を説明した後、大川広域消防による応急処置の説明、豚汁の炊き出しと非常食の試食をしていただき、市の近隣地域のハザードマップ拡大版、非常時持ち出しリスト等をお渡しして解散となりました。当日は、自治会会員、さぬき市職員、さぬき市社協、民生委員、大川広域消防、岩崎会長等の立会いをいただきご指導を賜りました。改めて感謝申し上げます。

課題は無限にあり、成すべきことは尽きませんが、私たちに課せられた使命とリスクに対する緊張感を常に意識しつつ、地道な取り組みを続けたいと思っています。

# 事務局だより

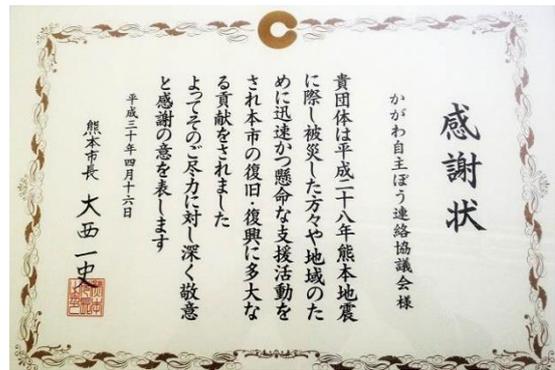
平成30年 5月

今月の事務局だよりは、岩崎会長の近況をお知らせします。

## 1. 熊本市長より感謝状を授与いただいた

2年前の熊本地震の折、熊本市立秋津小学校と近隣公民館で避難している人達への炊きだし支援活動しました。その活動に対して、本震から丸2年となる本年4月16日(月)他の団体と共に熊本市長大西一史様より感謝状を授与されました。

災害支援で何時も活躍されているピースボードボランティアセンターや、大手企業の支援グループと共にかがわ自主ぼう連絡協議会も名を連ね全国版としてPRできたものと思っています。



## 2. 熊本城内を見聞してきました

ニュース等で天守閣の復興状況はご存じ上げておりましたが、熊本市滞在時間を利用して城内を回ってきました。

①石垣関係はすべて地震発生後の崩壊状態のまま、手づかずの状況でした。



②戌亥櫓いぬいやぐらとそれにつながる塀囲いの崩落現場もまさしく発生直後と同じであった。



③天守閣は熊本県民のシンボリック的存在もあって早期復旧に取り組んでおり、現在は足場等に囲われていますが、間もなく雄大な姿を見る事ができると思います。



### 3. その他市内の状況

熊本市中心街の表通りは100%近い復興状況、ウラ通りに入ると、地震のツメアウトが何か所か見られた。又、神社関係の修復未完了で立入り禁止が続いているところも散見された。

#### 編集後記

今月の防災減災の輪は、さぬき市の特別養護老人ホーム香東園 理事施設長 中條様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。